

第2号

発行 群馬県訪問看護ステーション
連絡協議会
群馬県医師会内
住所 〒371-0022
前橋市千代田町一丁目7-4
TEL 027-231-5311
FAX 027-231-7667
責任者 鶴谷嘉武

たいよう

訪問看護制度は、超高齢化社会に向けて在宅医療の充実を図るため平成4年4月に老人訪問看護制度として始まりました。

当初、群馬県では4つのステーションが開設され、その時点で「互いさまさまざまな問題を相談し、協力しながら歩んで行きたい」との会合を持つようになり、その後が開設されたステーションの管理者も参加し、現在の群馬県訪問看護ステーション連絡協議会の前身である「太陽の会」が発足したと聞いております。そして、年々会員数も増加し活動内容も充実し、平成9年8月に世話人であります鈴木



群馬県訪問看護ステーション
連絡協議会

会長 鶴谷嘉武

木憲一先生のご配慮もあり、群馬県訪問看護ステーション連絡協議会が設立されました。

今、高齢化の進行とともに加齢に起因する病気等により、医療、看護・介護を必要とする人達が増大し続けています。そうしたなか看護・介護を要する状態になっても、できる限り住み慣れた地域や家庭で療養し、家族や地域の人々の支援を受けられることは利用者にとって大変大切なことであります。まさに訪問看護はその在宅ケアの中核を担っております。

来年度には介護保険法の改正が施行され、予防重視型システムへ

群馬県訪問看護ステーション連絡協議会
広報誌発行に寄せて

の転換、新たなサービス体系の確立等さまざまな改革が行われる予定です。

群馬県訪問看護ステーション連絡協議会の皆様には、訪問看護事業の円滑な運営を一層整備拡充していただき、益々、群馬県民の保健福祉の向上に寄与していただきたいと期待しております。



はんな・さわらび療育園研修 に参加して

榛名荘病院訪問看護ステーション

関 春 美



地元にいながら園を訪れる機会が
すくないので、今回は大変良い
研修をする事ができました。園長
先生をはじめスタッフの方のやわ
らかい印象は、入園者の方々の穏
やかな表情と同じように感じ取る
事ができました。障害の主要な原
因についても出産の分娩異常や出

生前の原因が上位を占める中、現
在は虐待による後遺症も数パーセ
ントあると聞き世相の反映を知り
少し驚きました。訪問看護支援事
業としての目的を理解し保護者の
思いを言葉でなくても感じ取り、
介護の負担の軽減が図れるよう努
力して行きたいと思えます。

通所看護とは

訪問看護ステーションきらくな家

中 里 貴 江

きらくな家の通所看護は訪問看護ステーションが利用者や家族を包括的に支援するために必要に迫られて実践したサービスです。

介護保険の開始により、サービスは拡大し施設も急増しました。しかし、医療依存度の高い利用者などは受け入れる施設が少なく、個別の看護を要する事から、既存のサービスでの対応は困難でした。そこで何時も看ている訪問看護師が係われれば、家族や本人は安心できると考えたのが通所看護です。

通所看護は自宅で行う看護を通所で行うので、主治医が指示した訪問看護の内容と同じです。但し、時間と空間と人手があるので、通常行う訪問看護より濃厚でゆったりとした看護が実践できます。

現在、通所看護に対する報酬はないので経営的にも大変ですが『制度は後からついてくる』と信じ、次回の診療報酬に期待しています。そのために今年度もモデル事業に参加し群馬県の代表として頑張っています。



広瀬・城東・朝倉訪問看護ステーションたんぽぽでは今年も在宅患者さんの温泉旅行を行いました。8回目の今年は、利用者さん17名、家族1名、職員ボランティア23名、合計41名の参加です。あじさいの花真っ盛りな6月、大型バスに乗り込み、榛名のゆーすげ元湯に行ってきました。毎年参加されるAさんは、エレベーターのないアパートの4階に暮らしているため一年で唯一の楽しい外出の機会です。ボランティア4名が車椅子のまま4階まで階段を使って送迎します。今日だけは広々とした浴槽に入ることが出来ます。入浴中は奥さんは土産を買うなど観光気分になります。一人暮らしで認知症のBさんは入浴後は担当の職員ボランティアと一緒におみやげコーナーを散策。職員は全身汗まみれですが、利用者

さんのうれしそうな顔を見て疲れを吹き飛ばし、急いで自らも入浴。今年は男性職員が少なく、男湯での介助が大変でした。介護の合間の気分転換を望むご家族や、ちよつと元気な利用者さんが楽しみにしているお土産購入などを考慮し、大変ですが水上など少し遠くに行くことにしています。

たった一日の日帰り旅行ですが、素敵に化粧して迎えて待つていくれる利用者さん、バスの中でのカラオケタイムなど、いつもと違う利用者さんの顔を見ることが出来る温泉旅行です。これからも続けていきたいと思っています。



息きらし　むくみし脚をひきずって

家族のために　食事の支度

妻亡くし　一人暮らしのわびしさが

言葉の端はし　見え隠れする

久々に　訪ねし我の手をとりて

か細き声で　安じていたと

はて？何処へ？　訪問先は逆方向

Uターン回数　最近増えてる

頬よせて　吾が子に語る　母の顔

苦勞の末に　見つけた安らぎ

ばあさんと　呼ばれて　返事するけれど

寄せる年波　吾が身も辛し

亡き夫に　祈る願いは　唯一つ

あの世へ旅立つ　パスポートだけ

富岡地域訪問看護ステーション

工藤清子

今 後 の 予 定

1 平成17年11月17日(木) 本学会・研修会 14:00~16:00

講 師：高木あけみ先生

(前橋日赤勤務：糖尿病看護認定看護師・糖尿病療養指導士)

演 題：『最近の糖尿病治療と看護』

2 平成18年1月21日(土) 新年交流会 14:00~16:00

会 場：前橋マーキュリーホテル

3 平成18年2月25日(土) 研修会 14:00~17:00

講 師：山崎麻耶先生

(全国訪問看護事業協会理事・元日本看護協会常任理事)

仮 題：『訪問看護ステーションの展望と課題・看看連携の必要性』

目 的：「患者とともに創る退院調整と看看連携をどう現場で進めるか」
を知ることによって患者と家族が安心して退院を迎え療養生活を送れる。

会 場：群馬県看護協会

4 平成18年3月or4月

研修会：介護報酬・診療報酬改定

講 演：厚生労働省または県介護保険室に依頼予定。

5 平成18年5月or6月 群馬県訪問看護ステーション連絡協議会・総会

講 師：宮崎和歌子先生に依頼予定

編集後記

すっかり秋らしさを感じるこの頃です。

仕事にプライベートに力が入る充実の季節。

会員の皆様には忙しい中での原稿依頼に対して快よく応じて下さいます。ありがとうございます。

今回でようやく第2号の発行となります。少しずつ内容も賑やかに楽しいものにと頑張りますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

また、ご意見、ご感想もお待ちしております。

広報担当(や)

